

本件は、大阪府政記者会、大阪市政記者クラブ、吹田日刊記者クラブに同時資料提供を行います。

報道関係各位

生きているミュージアム NIFREL

## 《ニフレル7周年》ニフレル生まれの「オキナワフグ」を展示 開業から7年間で7種類目の国内初繁殖です



「オキナワフグ」の赤ちゃん(全長約3cm、2022年10月5日撮影)

大阪府吹田市「EXPOCITY」の生きているミュージアム「NIFREL(ニフレル)」では、2022年10月27日(木)より、「わざにふれる」ゾーンにて、ニフレルで8月6日に生まれた「オキナワフグ」の赤ちゃんを展示いたします。

「オキナワフグ」はインド洋東部と西太平洋の熱帯域に分布し、日本ではその名の通り沖縄県下の河口付近やマングローブ域で多く見られます。体に5~6本の黒い帯と白いスポット模様があるのが特徴で、成長すると全長約30cmになります。

「オキナワフグ」の繁殖に成功したのは、ニフレルが国内で初めてで、世界でも初の例となります。

### 【オキナワフグの展示について】

《展示開始日》 2022年10月27日(木)より

《展示場所》 館内1階「わざにふれる」ゾーン

《大きさ》 全長約4cm(2022年10月26日現在)

《展示数》 20匹予定(ふ化数は約180匹)

《繁殖日》 2022年8月6日

《お問い合わせ》ニフレルインフォメーション TEL:0570-022060(ナビダイヤル)

### ○----【ニフレルにおける繁殖の取り組みについて】----○

ニフレルは2015年11月19日に開業し、今年で7周年を迎えます。開業以来、生きものの繁殖に積極的に取り組んでおり、これまでに絶滅危惧種であるミニカバが2頭誕生したほか、アメリカビーバーやオウギバトの繁殖に成功しました。

また、魚類ではフグ類を中心に繁殖に関する研究を進めており、今回の「オキナワフグ」を含めて**7種類について国内で初繁殖※(うち3種類は世界初)に成功**しました。いずれの種類も生態に関する知見が少ないものばかりで、繁殖に関する基礎的研究は、種の保存の観点からも非常に重要です。ニフレルでは今後も謎の多い生きものたちの生態解明や生物多様性の保全に貢献していきたいと考えています。

※日本動物園水族館協会加盟園館として

### 【本件に関する報道関係のお問い合わせ先】

お問合せ: NIFREL(ニフレル) PR・広報担当 田井、西前  
TEL: 06-6876-2204 FAX: 06-6876-2235 MAIL: nifrel.pr@nifrel.jp



## 【開業から7年間で初繁殖に成功した7種類の魚類】

## ①種名:パオ・スバツティ

《生 態》メコン川流域に生息する河川域で暮らすフグ。背中にハート型の模様があり、メスが流木に産みつけた卵に、オスが胸ビレを使って新鮮な水を送ったり、卵にゴミなどが付着しないようにして守る様子が観察された。

《繁殖日》2016年5月19日

《繁殖方法》飼育下における自然繁殖

※現在は展示していません。



パオ・スバツティ

## ②種名:テトラオドン・ショウテデニィ 【世界初繁殖】

《生 態》アフリカのコンゴ川流域に生息し、全長約10cmと比較的小型の淡水のフグ。2016年5月20日に、オスがメスの腹部に噛み付き産卵を促す繁殖行動が見られ、その後産卵が確認された。

《繁殖日》2016年5月20日

《繁殖方法》飼育下における自然繁殖

※現在は展示していません。



テトラオドン・ショウテデニィ

## ③種名:パオ・アベイ

《生 態》メコン川流域を中心に東南アジアの河川に生息する、一生を河川域で暮らすフグ。成長しても全長10cm程度と比較的小型で、体に丸いオレンジ色の斑点が多数あるのが特徴。

《繁殖日》2017年10月3日

《繁殖方法》飼育下における自然繁殖

※現在は展示していません。



パオ・アベイ

## ④種名:マミズフグ 【世界初繁殖】

《生 態》インドやスリランカ、バングラデシュ、ミャンマー、ベトナム南部のメコン川デルタ地帯に分布。主に海に生息するが、河川域や汽水域にも進入する。

《繁殖日》2019年5月14日

《繁殖方法》産卵誘発ホルモンによる人工繁殖

※「わざにふれる」ゾーンで展示中



マミズフグ

## ⑤種名：パオ・バイレイ

《生 態》メコン川の主流および支流に分布。体に毛のような突起物があり「毛フグ」とも呼ばれる。生息地の1つであるタイではレッドデータブックに掲載されている。

《繁 殖 日》2022年4月4日

《繁殖方法》産卵誘発ホルモンによる人工繁殖

※2022年11月1日より展示予定



パオ・バイレイ

## ⑥種名：テッポウウオ (スポッテッドアーチャーフィッシュ)

《生 態》東インド洋から西太平洋の主にマングローブ林の汽水域に生息。口から水鉄砲を撃ち水面上のエサを打ち落として食べる。

《繁 殖 日》2022年4月19日

《繁殖方法》飼育下における自然繁殖

※「わざにふれる」ゾーンで展示中

テッポウウオ  
(スポッテッドアーチャーフィッシュ)

## ⑦種名：オキナワフグ 【世界初繁殖】

《生 態》インド洋東部と西太平洋の熱帯域に分布し、日本ではその名の通り沖縄県下の河口付近やマングローブ域で多く見られる。



オキナワフグ

## 《生きているミュージアム『NIFREL』施設概要》

名 称	NIFREL (ニフレル) (館長：小畑 洋)
運 営 会 社	株式会社海遊館 (本社：大阪市港区、社長：村井 弘幸)
所 在 地	吹田市千里万博公園 2-1 EXPOCITY 内ニフレル
営 業 時 間	平日 10：00～18：00 土日祝 9：30～19：00 (最終入館は閉館の1時間前まで)
休 館 日	年中無休。 ※年に1回設備点検のための臨時休館日あり
施 設 内 容	8つのゾーン【いろにふれる、わざにふれる、およぎにふれる、WONDER MOMENTS、かくれるにふれる、みずべにふれる、うごきにふれる、つながりにふれる (生きもの約150種・約2000点)】 ピクニックカフェ「EAT EAT EAT」(200㎡・112席)、ミュージアムショップ (NIFREL×NIFREL)
入 館 料 金	大人 (16歳以上)・高校生 2,000円、小・中学生 1,000円、幼児 (3歳以上) 600円
交 通	大阪モノレール「万博記念公園駅」徒歩2分
駐 車 場	約4,100台 (EXPOCITY全体用駐車場)
構 造 規 模	S造 (一部SRC造、RC造) 3階建
建 築 面 積	約3,500㎡ (約1,060坪)
延 床 面 積	約7,200㎡ (約2,180坪)
※ 公式ホームページ	<a href="https://www.nifrel.jp">https://www.nifrel.jp</a>
※ ツイッター	<a href="https://twitter.com/nifrel_official">https://twitter.com/nifrel_official</a>
※ Facebook	<a href="https://www.facebook.com/nifrel.jp">https://www.facebook.com/nifrel.jp</a>
※ インスタグラム	<a href="https://www.instagram.com/NIFREL_OFFICIAL">https://www.instagram.com/NIFREL_OFFICIAL</a>